



三原じゅん子

すずらん台西4-202  
☎0595-68-3552

三原じゅん子 名張 (HP)

E-mail: junko.mihara@asint.jp



藤川よしひろ

富貴ヶ丘3-28  
☎090-1753-0491

https://www.facebook.com/y.fujikawa.nabari

E-mail: yoshi.fujikawa10@gmail.com

生活相談はいつでもどうぞ

### 6月定例議会報告

#### 藤川よしひろの一般質問

## 誰一人取り残さない市政とは？

【名張市議会YouTube配信・6月17日（一般質問3日目）再生ポイント3：22：00～】

行政サービスは  
全市民が平等に  
利用できなければならない！  
格差を生むデジタル化は  
進めるべきではない！



ト、ホームページなどデジタルを活用した情報発信が増加しています。スマートフォンやPCの普及率が上昇している昨今では、手軽に情報を取得する手段として有効なことは間違いありませんが、視覚に障害を持つ方や、インターネット機器を使用するのに支援が必要な方への配慮が不十分であるがために、本来誰もが平等に受け取れるはずの情報が届かず、格差が生じています。

全戸配布されている、「広報なばり」も2024年4月号よりA4カラー化されましたが、視覚障害者用の点字版は希望者のみの配布となっています。

視覚障害者や要支援者が利用できるように開発されたPCやスマートフォン機能、ツールも多くありますが、それらを活用するには初期設定や使用方法を学ぶ必要があり、そのためICTサポートが重要な役割を担っていますが、名張市には登録されているボランティア団体やNPO団体は存在しておらず、必要なサポートが受けられないのが現状です。

デジタルを活用した情報発信を推進する際に、受け取れない市民がい



「誰一人取り残さない市政」を実現するには、どうすれば公平、平等に全市民にサービスを提供できるかを考えることが出発点であり、最も重要なことです。全ての事務事業をこの観点から見直すよう求めました。

「施策を展開する際には企画段階から常に意識するように努める。」「点字版広報なばりの郵送やICTサポートについても早急に検討する。」

基礎自治体の行政というのは、ほとんどが福祉的な要素が非常に強いと考えている。ハンディがあってもなくても、高齢者であろうとあらゆる人が自分らしく生きる権利があるわけで、その権利を阻害している社会的な障壁・要因を行政として政策を施し取り除いていくのが役目だと思っている。しかし一方で、全ての市民を対象に同時に同じ政策を展開できるわけではないので、一定の優位を確保しながら、手法を変えてカバーしていく必要がある。一番大

「誰一人取り残さない市政」を実現するには、どうすれば公平、平等に全市民にサービスを提供できるかを考えることが出発点であり、最も重要なことです。全ての事務事業をこの観点から見直すよう求めました。

また、生きづらさや困りごとは個々に異なり、理解を深め、解決していくためには、当事者の声を聴くことが最も重要ですが、デジタル化の発展によって、声を聴く機会も声を上げる機会も減少しています。これでは本末転倒です。

「誰一人取り残さない市政」を実現するには、どうすれば公平、平等に全市民にサービスを提供できるかを考えることが出発点であり、最も重要なことです。全ての事務事業をこの観点から見直すよう求めました。

また、生きづらさや困りごとは個々に異なり、理解を深め、解決していくためには、当事者の声を聴くことが最も重要ですが、デジタル化の発展によって、声を聴く機会も声を上げる機会も減少しています。これでは本末転倒です。

「誰一人取り残さない市政」を実現するには、どうすれば公平、平等に全市民にサービスを提供できるかを考えることが出発点であり、最も重要なことです。全ての事務事業をこの観点から見直すよう求めました。

また、生きづらさや困りごとは個々に異なり、理解を深め、解決していくためには、当事者の声を聴くことが最も重要ですが、デジタル化の発展によって、声を聴く機会も声を上げる機会も減少しています。これでは本末転倒です。

また、生きづらさや困りごとは個々に異なり、理解を深め、解決していくためには、当事者の声を聴くことが最も重要ですが、デジタル化の発展によって、声を聴く機会も声を上げる機会も減少しています。これでは本末転倒です。

**子ども・子育て応援総合補助金を活用  
学童クラブの受け入れが  
できなかった桔梗が丘小学校区で、  
夏休みの子どもの居場所が実現!!**

桔梗が丘西集会所(定員30人)、利用料2万円、総合型地域スポーツクラブに運営を委託。教育民生委員会で引き続き学童保育の在り方、利用料無料の放課後児童教室の創設など、子どもの居場所づくりについて調査・研究します。

**藤川の見解**  
使用方法や設置目的などを利用者に周知徹底する方等を問いました。障害のある子どもも遊べる遊具ということですが、どの遊具で遊ぶというところから遊具を設置しても意味がありません。障害をもっているとかぼちや公園に行くこと自体が困難な場合もあります。地域ごとに公園がある本市の利点を活かして、どの公園でも誰もが遊べる環境をつくるのが重要であると考えます。遊具以外にも大人が見守れるようにベンチの修繕、増設なども含めて、今後も市民に寄り添った整備を求めていきます。

**質問**：遊具が使用禁止になっている公園が市内には多く存在している。一つでも多くの公園に比較的安価なインクルーシブ遊具を設置するべきではないか

**答弁**：次回以降考えていきたい

# 安全な避難所、要支援者の避難、水、非常時の電源、医療体制… 人権保障の観点に立った防災・減災を求めます

【名張市議会・一般質問YouTube配信・6月14日 再生ポイント1:15～】



能登半島の震災で亡くなられた方へお悔やみを、被災された方々へお見舞いを申し上げます。地震発生から半年が過ぎましたが、復旧・復興は進んでおらず避難生活で心身に相当の負担があり、災害関連死や孤独死が起きています。震災の実態を教訓に名張市での防災・減災対策を進めなければなりません。南海トラフ地震発生の確立が高く、また地震だけでなく風水害にも備えなければなりません。

南海トラフ地震  
想定避難者数(人)  
※冬夕発災

分類	名張市	三重県
1日後	約2,300	約757,000
避難所	約1,400	約478,000
1週間後	約9,700	約793,000
避難所	約4,900	約474,000
1か月後	約2,300	約973,000
避難所	約700	約292,000

三重県地震被害想定調査結果(平成25年版)

**災害警戒地域にある避難所の対策を  
危機感持って進めよ!!**

**三原の意見**  
まずは安全な避難所の確保が必要です。

**名張市の回答**  
地震や風水害と災害の特性に応じて避難所運営を行う。市民の安全、良好な生活環境が相反するところがある。これが両立するように地域のみならず施設の管理者とも継続して協議していく。それぞれの施設の安全性については各部局連携し、必要となれば当然対策をとっていく。

**指定緊急避難所**  
洪水や火災で危険が切迫した状況において、生命の安全確保を目的として緊急に避難する場所 (31箇所うち洪水浸水想定区域2か所、土石流危険区域1か所)

**指定避難所**  
避難した住民等を災害の危険性がなくなるまで必要な期間滞在させ、また災害等により家に戻れなくなった住民等を一時的に滞在させる施設 (52箇所うち土砂災害警戒区域14箇所)

**三原の提案**  
都市整備部とも協議し、安全を確保する整備を危機感を持って検討してください。また、近大高専の体育館や教育センター、保育所・園、幼稚園などが指定避難所になっている。協力を要請し安全な避難所を増やすことを求めます。

高年齢者や支援が必要な方は自力での避難が難しい。そして安全な指定福祉避難所が足りない!

**三原の提案**  
高年齢者福祉施設が指定されているが、それらの施設にはすでに入所者があり受け入れ数にも限りがあります。施設までの移動も困難でしょう。そこで居住地域内にある地域型介護施設等に器材や財源的支援を行い、一時的に避難できるような協力を要請してはどうか?

**名張市の回答**  
地域の事業所にどこまで協力してもらえるか継続して協議していく。

**個別避難計画の策定は地域任せではない!**

**三原の意見**  
市は要援護者支援制度の推進を地域に依頼しているが、計画の策定や支援体制など地域で確立するのは困難です。地域任せにせず、職員が地域に入って地域の実態を把握し対策を立てることを求めます。

**名張市の回答**  
福祉職員、地域で支える人、市福祉担当の三者で個別避難計画をつくる。机上だけでなく、平時からの見守りの機会としていく。地域の避難訓練にも参加する。

**災害時の医療体制を  
市民に周知してください**

**名張市の回答**  
大規模災害時は、災害対策本部で集約し市のホームページやSNS、防災ラジオ等で、情報を発信する。医療機関の診療の可否、受け入れ患者数等、医療情報を集約し更新していく。

**市立病院の回答**  
地震や台風の自然災害、列車事故など大規模な災害や事故の時、消防の救出や救助の部門と連携して治療を行う訓練を受けた医療チーム(医師2名、看護師6名、業務調査員6名)DMATを有している。南海トラフ地震発生時は三重県にDMAT本部が設置され、各隊へ出動が要請される。名張市が被災した状況では他市に応援には行かない。

**三原の意見**  
災害拠点病院の名張市立病院を公立病院として守っていきましょう。

**命をつなぐ水と非常時の電源確保を**  
市民は1日1人3リットルを3日分の水の備蓄を。災害井戸の登録は、38箇所が登録されています。

**三原の意見**  
住宅団地配水の水道ポンプの停電時の電源確保を求めます。

**名張市の回答**  
配水機は34箇所ある。自家発電装置や非常用発電機などバックアップ電源を確保し停電している地域をまわる。

**緊急時、子どもたちの命を守るために  
全ての保育所・園、幼稚園、保育施設に  
AEDの配置を!**  
公立保育所3所、私立3園、地域型保育施設4か所にAEDが未設置。AEDを使用した傷病者の53%が生存し、実施しなかった場合の約4.7倍の生存率であったというデータ(総務省消防庁の「救急・救助の現況」)が出ています。

三重県に制度を求めると共に、名張市での補助を求めます。

**熱中症予防や停電・災害時の備えとして、公共施設でのクーリングシェルターの開設を**

**名張市クーリングシェルター  
(指定暑熱避難施設)**  
現在市役所1階ロビー、図書館、保険センター、リバーナオ、名張店3階フードコート、らん台市民センター他

**補正予算**  
水道管路の耐震化  
5630万円を補正し、6040万円の予算になりました。

**三原の意見**  
地震により著しい被害が生じる恐れがあると思われる地区など災害対策に対しての有利な地方財措置を活用し、早期の耐震化を求める。

**名張市の回答**  
R3年～R12年までに86kmの老朽化に伴う耐震化を計画。R3年～R4年14.8km(17.2%)、次期3年間みこみ24km(28%)、R7年に計画の検証を行う。

**三原の提案**  
消防団の処遇改善と共に理解の促進も大事です。防災意識を高めてもらう取組として、女性消防団員の方が行っている親子救急救命講習会(AEDプッシュ訓練)の開催も推進してください。